

写真でハッケン! 世界の教育・日本の教育

10月6日は『国際協力の日』です！途上国ではどんな暮らしがあり、どんな国際協力が行われているのでしょうか。今回のコラムでは、JICA在外事務所の職員が、現地の教育や、そこでJICAが取り組む国際協力をご紹介します。また開発教育・国際理解教育として、学校で実践できる「国際協力出前講座」についてもお聞きました。

カンボジア

執筆：JICAカンボジア事務所 篠原 雄之 職員



カンボジアの首都プノンペンは「東洋のパリ」と言われるほどフレンチコロニアルな街並みで、夜はまさに100万ドルの夜景が広がります。しかし、急成長の裏には格差の拡大があり、いわゆる途上

国的な衣食住が路上で見られます。また、全人口1600万人に対して1日に平均400~500人の新型コロナウイルスの新規陽性者が出ています（2021年9月現在）。しかし人々のマスク着用等は徹底されていて、ワクチン接種のペースも早く、危機に対して強いリーダーシップが発揮されています。



校外ネットワークとしてのオンライン出前講座

コロナは我々の生活を一変させ、日本でも特に教育現場での力が試されている時かと思えます。子どもたちが国内外に容易に出られず、課外の学びが薄くなる中、先生自身が外部の人とネットワークを築き、子どもたちに外の世界を見せる役割は、以前にも増して重要になっていると感じます。

私は先日、JICA職員としてカンボジアにしながらオンラインで出前講座を行いました。海外で働くことや国際協力への熱意、カンボジアの様子を伝えたことで、学生にも大きな影響を与えることができたと思います。

JICAには熱意をもって国際協力を伝えたい人が、国内外どこにでもたくさんいます。先生方が求めるネットワークとして、JICAを活用し、一緒に新しい教育を実践してみませんか？私たちはいつでもWelcomeです！！

カンボジアの教育



カンボジアも日本と同じく、小学校から高校まで6・3・3の教育制度がとられていますが、就学率は小学校91.9%、中学校60.7%、高校32.2%と、学年が上がるにつれて留年・退学する子どもが多くなっています。その背景には、授業についていけない子どもへのケア不足や貧困による児童労働等の課題があります。



授業では、子どもが先生の説明をひたすら聞き、貸与されている教科書を何度も音読し、ノートに丸写しする様子が見られます。子どもたちは大変熱心に取り組んでいますが、国際学力テストにおいて、最低限度の算数の能力を有する生徒は10%、最低限度の識字能力を有する生徒は8%とのデータもあり、学習の質に大きな課題があります。

さらに、コロナ禍では長期間にわたり学校が休校となりました。このような状況下で、小中学校や教員養成校に派遣されているJICA海外協力隊や専門家などが、現地の先生に助言をしたり、オンラインで学べる教材を作成したり、試行錯誤しながら子ども一人ひとりの学びの機会・質の確保に向けて取り組んでいます。コロナ禍で世界中の教育現場が新たな課題に直面していますが、互いに知恵を分かち合っって困難を乗り越えるべき時だと感じます。



パプアニューギニア

執筆：JICAパプアニューギニア事務所 阿部 剛 職員

パプアニューギニアの教育



パプアニューギニア（以下、PNG）には800を超える言語があり、多くの民族が暮らしています。極楽鳥や火喰い鳥、キノボリカンガルーなどの羽根や皮等で作られた民族衣装が特徴的です。

PNGでの新型コロナウイルス感染者数は総人口の0.2%程度ですが、検査数が少なかったり、ワクチン接種率も1%強に留まるなど、予断を許さない状況です。これまで、ロックダウンにより学校も閉鎖されることがありましたが、ユニセフなどの国際機関と連携しながら、家庭学習用の教材、マスク・消毒液等の配布等を通じ、児童たちの学びを止めない努力がされています。



多文化共生に目を向ける出前講座の視点

以前、北海道教育大学で「多言語と多文化」を教えました。その際に、ザンビアの事例（73の民族と言語）を紹介すると、学生から「言葉が違うのにどうやってデートに誘うんだ？」といった反応がありました。PNGではその10倍の800の言語があるので、さらに大変なのかもしれませんね。

他方、見方を変えてみると、彼らは生まれながらに多文化に触れる機会を与えられ、外国人にもすぐに心を開いてくれるなど、グローバルゼーションの中で生きていく術を知らず 知らずのうちに身に付けているのだと思います。出前講座でもこの視点を大事にしていて、日本の児童・生徒達にも、これからのグローバルゼーションの時代で活躍できるよう、外の世界・文化に触れあってもらえたら嬉しく思います。

日本の教科書は、生活や身近な自然を題材にして児童の関心を惹きつけたり、かけ算を学んだ後に面積の計算を行うなど、各単元で履修した内容を踏まえて次の単元が組まれるように、学びの課程が工夫されています。今、PNGでも日本の特長を生かした教科書が小学校3～6年生の理数科で使われ始め、今後、児童たちの自然科学分野を軸とした学力向上が期待されています。他方、PNGの教員は、研修や授業研究の機会がなかったり、教材が不足しているために、授業の質には多くの課題があります。そこで、JICAは2021年より、理数科の学生用教材及び講師用指導書の開発を通じて、全国の初等教員養成校の理数科講義の質の改善を行っています。

伝統的な板書



パイロット教師 板書全面を使う



例えば、PNGでは黒板を教科ごとに分け、その小さなスペースだけを使った授業が行われています。これは、教科書を持たない児童に板書をする時間を十分に与えること、欠席した子どもが翌日以降に見られること、次の授業時に復習しやすい点が理由ですが、最も大きな理由は、視学官や教員養成校の講師が全面の黒板を使った授業方法を知らないためです。今後は、児童・生徒は1人1冊の教科書を持っているため、教員が指導書に記載されている「板書サンプル」を元に板書の方法が改善されるでしょう。

PNG教員養成校で算数を指導している Polume先生（左から2番目）は「本プロジェクトに参加できていることに誇りを持っている。日本の教科書には学びの一貫性があり、何より児童が主体的に考えられるような構成が素晴らしい。この教科書を最大限活用できるような指導法を学生（将来の先生）に指導していきたい。」と語ってくれました。著者は右端。



10月6日は『国際協力の日』 各国でのJICAによる国際協力をご紹介します！

◆ カンボジアでのJICAの国際協力 ◆

カンボジアでのJICA事業は、産業開発に資する道路や港等の経済インフラ、人々の生活の質改善に資する水道やバス等の生活インフラ、民法の制定や地雷除去、女性のエンパワメント等のガバナンス強化に資するものなど、多岐にわたる分野で支援を行っています。



中でも水道への支援は「ポンペンの奇跡」と言われるほど成功事例として取り上げられ、なんとポンペンでは日本と同じように蛇口から出る水が飲めるのです！途上国で、しかもカンボジアと同等の成長段階にいる国で蛇口の水が飲めるのは世界でもカンボジアだけです。

蛇口の水は、川などの水源から処理場を経てパイプで各家庭に配っていますが、その過程でごみや泥等を取り除いて殺菌する必要があります。これを適切に行うには知識と技術の積み重ねと、継続した管理が求められます。近隣国では蛇口から茶色い水が出る、中には小魚が出てくる国もあり、蛇口の水を飲むなどもってのほかです。

このように日本の強みを生かして、カンボジアの行政能力を向上させることで人々の生活を豊かにしていくことが、JICA事業の根幹であり、醍醐味なのです。



◆ パプアニューギニアでのJICAの国際協力 ◆

PNGではこれまでの「成果重視型」の教育を廃止し、2014年から新たな「基準達成カリキュラム」を導入し、国定教科書を作成することになりました。ところが、PNG教育省はこれまで国定教科書を作成した経験がなかったため、2016年から約4年にわたり、JICAと一緒に全国の小学校3～6年生を対象とした理数科の教科書と教師用指導書を作成してきました。作成された教科書・指導書は、日本の無償資金協力を活用して、全国の小学校・教員養成校に配布（総数192万冊）され、PNG国の目標であった「生徒1人に1冊の教科書」を達成することができました。



▲ 教科書内容について議論する
JICA専門家と教育省職員



▲ 作成された教科書で学ぶ児童たち

Summary

Clothing

People use plants and animals for clothing. Some clothings are made from plant parts. Others are made from animal skin or fur.



People use plants and animals for ethnic costumes.

Sample Blackboard Plan

<p>Title "People and Living Things"</p> <p>Key question How do people depend on living things to survive?</p> <p>Activity People depend on living things</p> <p>The ways people depend on living things</p> <p>Food to eat</p> <p>House to build</p> <p>Clothing to make</p> <p>etc.</p>	<p>Discussion Q: How do people depend on plants? e.g. For food, house, furniture and clothing</p> <p>Q: How do people depend on animals? e.g. For food, clothing pet and security</p> <p>Q: What are the plant parts that people use to build their house and furniture with? Wood, sticks, grass, bamboo stem, palm stem and leaves</p>	<p>Q: What are the plant and animals parts that people use to make their clothing with? Leaves, barks, feathers and animals' skins or fur</p> <p>Summary - People depend on living things for:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Food 2. Shelter (home) 3. Furniture 4. Clothing 5. Others: e.g. medicine, pet, musical instrument, hunting, etc.
--	---	---

▲作成された小学校4年生向け理科の指導書（一部抜粋）。生活分野の単元では、PNGの文脈に沿った内容が紹介されている（左上図）。また黒板の使用法についても例示している（右上図）。

国際協力を見つめることは、社会の多様性を感じ、その社会や世界の一員としての「自分」はどうあるべきか、ということを考える第一歩になるのではないのでしょうか。コロナ禍でもそんな学びの機会を提供するべく、国際協力出前講座やJICAのセミナー・研修はオンラインでも多く実施されています。国際協力の現場や、そこからの視点を感じ取る機会として、ぜひご活用ください！